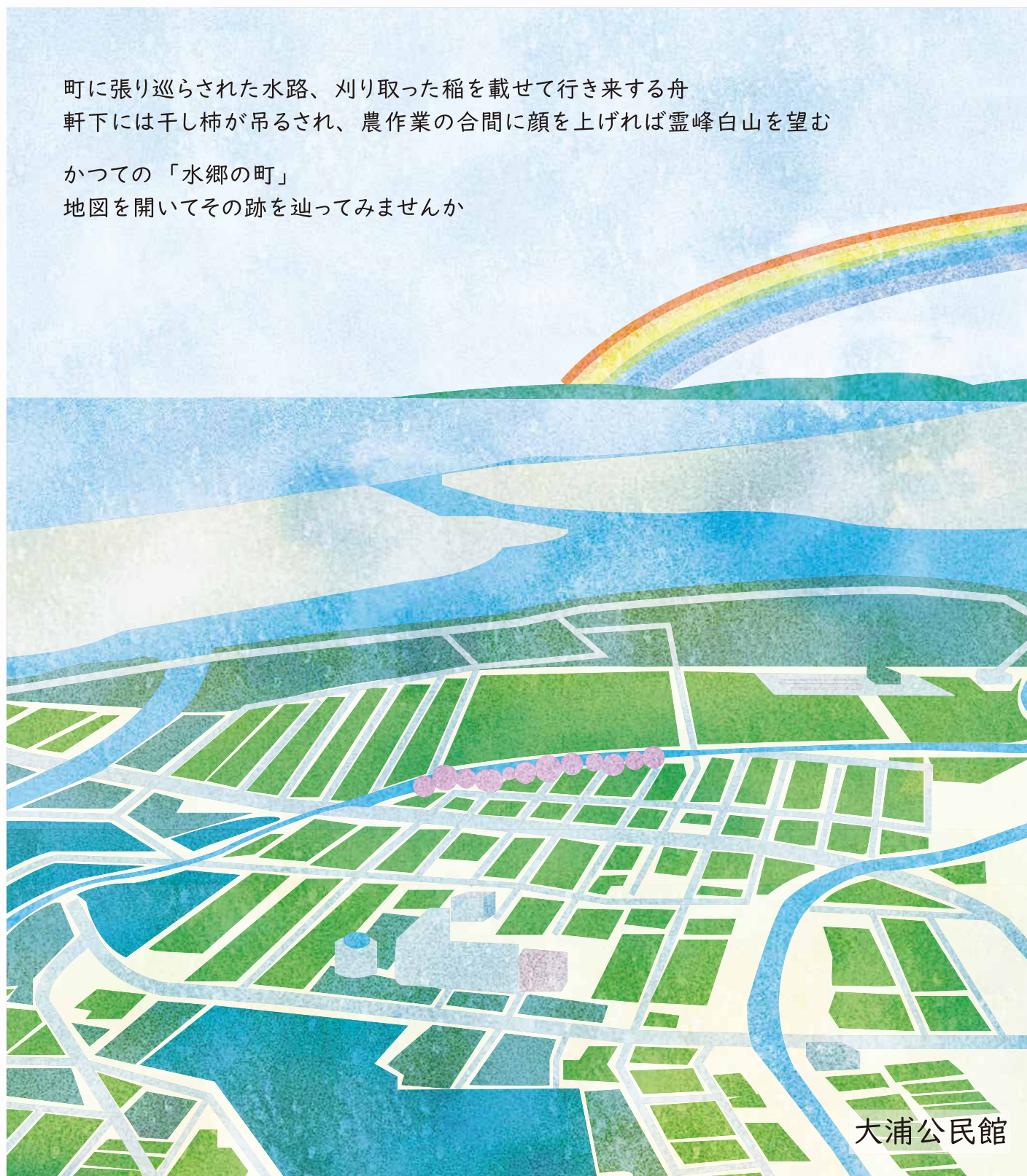


大浦校下 おもいでマップ

東蚊爪
大浦
木越

町に張り巡らされた水路、刈り取った稲を載せて行き来する舟
軒下には干し柿が吊るされ、農作業の合間に顔を上げれば霊峰白山を望む

かつての「水郷の町」
地図を開いてその跡を辿ってみませんか



おもいでマップとは

このまちにはたくさんの“お宝”があります。
 たとえば歴史、自然、建築物、伝統…。
 そしてそれにまつわるたくさんの人の『おもいで』。
 日常の中に溶け込んでいるからこそ忘れていた、
 知らなかったことがあると思います。
 今、形に残さなければ、消えてしまうかもしれない。
 忘れたくない、伝えていきたい、
 そんな思いからこのマップをつくりました。



使い方は自由

- ・マップを持って町を散策・探検
 - ・旧水路や伝説の跡を巡る
 - ・夏休みの自由研究のヒントに
 - ・思い出話に花を咲かせるアイテムとして
 - ・情報を書き足してオリジナルのマップをつくる
- etc...

獅子舞

東蚊爪、大浦、木越の3町会では
 代々伝統芸能の加賀獅子が受け継
 がれてきた。20kgの獅子頭と10mを
 超すほどの蚊帳(胴体)が特徴の大
 獅子、素手や刀、なぎなたを使っ
 て挑む剣士、両者の闘いを盛り上
 げるための太鼓、笛、三味線の囃子。
 この3つが揃うことで演技が成り
 立つのだ。

町を語る上で欠かせない獅子舞。
 元々は稲刈り後の秋祭り、豊作
 に感謝して神様の前で演じること
 で一年の苦勞をねぎらい、地域の
 連帯を高めるものだった。町会ご
 とに獅子頭も剣士も囃子のメロ
 デイも異なる。それぞれ見比べ
 てみると新たな発見があるかもし
 れない。



大浦校下の 伝統文化

奴行列

東蚊爪と大浦の秋祭りでは獅
 子舞と共に『奴行列』が町を練
 り歩く。大名行列・参勤交代の
 様子を伝えるために始まったと
 される。

顔に色を塗るのは金沢ならで
 は。おしろいの上に勇壮な黒ひ
 げや赤青の化粧を施す。大浦が
 白と黒の顔であるのに対し、東
 蚊爪は緊張感を伝えるため、青
 と白の歌舞伎役者のような色に
 塗る。毎年、祭り当日の午前3
 時から西念寺住職が一人ひとりの
 顔に塗るのが東蚊爪の伝統だ。



実際のお祭りの様子は
 こちらから
 ご覧になれます。



大浦町
獅子舞



東蚊爪町
獅子舞



木越町
獅子舞



東蚊爪町
奴行列

①鞍降橋のおはなし

昔、東蚊爪では馬を育てていた。ところが鞍がなかったので馬を競争させることが出来ず生育状況を確認できなかった。これでは馬を売れない…と嘆く人々を見た須岐神社の神主が「鞍をください」と天に祈願した。すると祈りが通じて天からたくさんの鞍が降ってきたという。そのおかげで馬を売ることが出来た。感謝した人々は鞍が降ってきた場所を『金鞍降』、そこに架けられた橋を『鞍降橋』と呼ぶようになった。

③了廣寺

現在も毎月お参りと茶話会が開かれている。平成20年頃までは葬儀の後、家で村追善の法要が行われていた。

④細川さんの家

明治初期の建築で登録有形文化財。

⑦ふれあい公園

金沢市初の住民提案型公園。

⑤ころがし

水を張った田んぼに転がして田植えの目印をつけた。

⑥豆腐屋

当時貴重な存在で東蚊爪以外の地域からもお客さんが来た。

⑧はさかけ

大宮川沿いには刈った稲を天日に干すための『はさかけ』が一面に広がっていた。かつての大浦の日常だった。

②火の見櫓跡

浅野川の氾濫や火事が起きた時に鳴らした。近い場所での火事は「ガンガン」、遠い場所での火事は「カーンカーン」。

⑬ケヤキの木

昔はこの木に登り、川に飛び込んで遊んだそう。

⑮桐の木

昔近所の人嫁入り道具の箆筥用に植えた。

⑬須岐神社

はじまりはなんと奈良時代！現在の神主さんは23代目。今は獅子舞の練習の場にも。

⑪西念寺

毎月12・15・27日の夜にお参りと法話が行われている。町内の葬儀には大多数の参列が現在も続く。

⑨飛行橋

第二次世界大戦中、今の免許センター付近に飛行場があった。そこへつながる道に架けられたから『飛行橋』。欄干にはプロペラの模様がある。現在のものは2代目。

⑩貸し舟屋

昭和39年の洪水以前は舟で移動していたので、2軒の貸し舟屋があった。魚釣りのエサも売っていた。

田んぼの生き物

ドジョウ カエル
カエルは釣りのエサに使われたり、塩コショウを振って食べたり…。

⑫牛糞の肥溜め

農肥料にするために発酵させていた。釣りのエサになるミミズがたくさんいた。

浅野川の生き物

インガレイ ウナギ シジミ
ライギョ ナマズ ゴリ フナ モズクカニ
昭和30年頃まではアユも来ていた。
浅野川の堤防からは花火や白山連峰が見える。

東蚊爪町

浅野川の河口付近を『加賀の詰まり』と表現していた名残がこの町の名前です。60年前の東蚊爪は周辺から人々が訪れるような地域の中心的な存在だった!? 東蚊爪のメインストリートを探せ!



①大宮川

昔はもっとキレイで泳げる川だった。物干し竿に糸をつけて釣り竿にしていたので、竿が折れるたびにお母さんに怒られた人も…。昭和30年頃までは舟小屋が点在していた。かつては川に水草『ヒシ』が群生していたことから『ひし坊』が生まれた。

大宮川の生き物

ライギョ・フナ・コイ・ボラ・カイツブリ
モクズガニ



初夏の大宮川では虫の姿が見られました



1 大宮川

②槍ヶ岳を見よう!

金沢市の平野部では唯一、槍ヶ岳を一望できるスポットではないかと言われている。晴れて空気が澄んでいる日が狙い目。



④ライギョ

大宮川や農業用水では今でも県外から釣りに来ている人を見かけるそうだ。昔は捕まえたカエルをエサに釣っていた。



⑤大浦縮柿の木

今は老木だが昔は柿が実った。当時の町のお母さんたちは柿を金沢市街地へ売りに行っていた。そのおいしさから評判になったという。



田んぼの生き物

メダカ・オタマジャクシ・カエル・アメンボ・フナ・ザリガニなど。昔は食用カエルもたくさんいたという。



タニシスポット



⑥カラスウリ

夜にだけ咲く花を見たことがある人はきっと少ないはず。めったに見られないため、見ることが出来た人はラッキー。この植物に含まれているグリセリンは焼酎に漬けると肌荒れの薬になるそうだ。



⑭手紙の木(タラヨウ)

葉の裏側に爪や棒でひっかくと字を書けることから『手紙の木』と呼ばれている。



⑬魔除けの木

その正体はスダジイの木。幹や枝が太く立派であるため、昔はよく木登りをしたそうだ。夜には真っ暗になって怖かった記憶が強く残っているとのこと。

⑩上行寺

真宗大谷派の寺院。開基は16世紀頃で現住職は15代目にあたる。

⑨安居寺

大浦の開拓者である、池田元助の石碑がある。

⑦旧食水川

昭和30年頃までは食用水として使われるくらいキレイな水が流れる川だった。



火の見櫓跡

⑪豊栄神社

町の人が集まる集会場のような存在。ナギという切れない葉を持つ植物がある。今は小さいがいつかご神木になるよう町の人が植えた。夫婦縁を結ぶとも言われている。



⑫豊栄神社跡地と天狗の木

昔の豊栄神社は子どもたちの遊び場だった。境内には今も『天狗の木』が残る。本当はタブノキだが、夜にトンビ・カラス・フクロウがこの木に止まりケンカをした時の音が天狗がいるように聞こえたため、こう呼ばれるようになった。天狗が腰を掛けたというコブがついている。



大浦町

大きく湖(河北潟)に入りくんだところに位置することから『大浦町』の名がついたとされています。不思議な植物や伝説が残っているのでみんなで探検してみよう!

— 主要道路
- - - 旧水路



①血ノ川

16世紀、侵略してくる織田軍からこの地を守るための一向一揆が繰り広げられた。この戦いで多くの血が流れたことから、血に染まった川、『血ノ川』と呼ばれるようになった。

◆木越三光

15世紀、蓮如上人によって一向宗（浄土真宗）が広まり、光徳寺・光琳寺・光専寺がこの地域の門徒の中心となっていた。その後も勢いを強めた一向宗は当時加賀国を治めていた富樫氏を滅ぼし、『百姓の持ちたる国』として100年続いた。

③かぶ太郎兵衛の伝説

ケチで金持ちの男だったが、検地の時に不正を働いて死罪に。それからというもの、雨の日にはかぶ太郎兵衛の霊がうろつくという…。

②鷹匠橋

このあたりで前田の殿様が鷹狩りをしていた。

④子どもの水浴び場

昭和の頃、町で川の一部を浅くし、子どもたちが安全に遊べるようにしていた。“夏の遊び場”



⑤馬渡

ここだけ馬が渡れるくらい川を浅く造った。

⑥武若造

一向一揆の際、このあたりで戦装束をつくっていた。

⑦三尺の道

昔はどこもこの道より細い道ばかりだった…!

⑪木越あおぞら公園

獅子舞の練習場。盆踊りや防災訓練もここでやる。

⑨宮商店

100年以上続く町唯一の駄菓子屋さん。昔はたくさん子どもたちが集まった。今はおばあちゃんたちが昔話に花を咲かせる場所でもある。

⑧木越八幡神社

前田家にゆかりのある社殿。木越の子どもたちは神社の境内や縁の下でおにごっこやかくれんぼをして遊んでいた。

⑩福千寺（五色の梅）

室町時代、木越村に立ち寄った蓮如上人がこの地を去るときに、持っていた梅の杖を庭に植えた。これが赤青白桃黄色の5色の八重梅になったと伝えられている。

その後、前田の殿様がこの木を気に入り城内で育てたが一向に花が咲かなかった。そこで福千寺に植え直すと、以前のように見事な5色の花を咲かせた。

現在咲くのは赤白桃の3色とのこと。



木越町

源氏に仕える木越氏の子孫が開いたのがはじまりとされています。木越はお寺や農民が守りぬいた土地で、そのヒントが様々なところに隠れています。

◆至・光徳寺跡





えーええやー
ここは海環状線 里山海道
加賀路と能登路を つなぐ町
加賀の平野と 野鳥の住みつく河北潟
両手いっぱい 自然の中で
陽気暮らしを しようじゃないか
大浦校下の 未来をつなぐ

大浦公民館竣工記念祝賀曲
『しあわせ音頭』
(3題目抜粋)



あとかぎ

大浦校下は、湊、東蚊爪、大浦、木越、木越団地、みずきの6町会で形成されていますが、昭和40年代は、東蚊爪、大浦、木越の旧3町会だけが存在していました。

段々と当時の水郷のふるさとの記憶をとどめている方々が少なくなり、大浦校下のおもいでを残したいという思いを秘めていました。平成30年の春から、金沢大学蜂屋先生と地域創造学類の大学生と校下の3世代の方々との協力で、地元学として旧3町会の道路・住宅環境、草木、水環境、田畑等の聞き取り調査を実施して、過去と現在の入り混じった手書きのマップを作成しました。その後、金沢大学生の菅村真央さん、三浦悠希さんが中心となってイラストを描き、まとめた『大浦校下おもいでマップ』が完成しました。

この校下の先人たちがどのように生活していたかを知る手がかりになると同時に、現在の大浦校下住民の皆様と歴史の共有と先祖の生活の営みの一端を知る機会になればと思っております。

『大浦校下おもいでマップ』は、今後大浦校下住民の方々に昔の大浦校下の思い出話に花を咲かせたり、マップを見ながら散策したり、色々な形で活用していただきたいです。

令和2年3月吉日

大浦公民館 館長 本嶋 千加良

大浦公民館
公式ホームページ▶



当地図の参考文献
『ふるさと 水の郷』▶



大浦公民館
イメージキャラクター
ひし坊